

## 編集後記

伝統ある坂野中学校が69年の歴史に幕を閉じることになりました。その間、1万人を超える卒業生を輩出し、数々の記録や思い出を見守ってきた校舎もその役割を終える日が来ました。子供の少子化や校舎の耐震性の問題など社会情勢の変化に伴う統廃合は、避けられないことは十分承知しておりますが、普段、存在することが当たり前とっていたものが、突然無くなってしまう、喪失感や空虚感にも似た感覚になっているのは、私だけではないと思います。学校という存在が地域でどれほど愛され、心の拠り所であったことか。

しかし、この出来事が前に進むための歴史的転換点なのだと考えるならば、今の在校生を含むこれからの子供たちへ、より良い学習環境を用意することができたと喜ぶべきなのだと思います。これまでの思い出は、皆さんの心の中に永遠に生き続けると共に、坂野中学校の誇りや伝統は、在校生がしっかりと新しく開校する小松島南中学校で引き継ぎ、伝えていってくれるものと確信しております。そう思えば坂野中学校の閉校は終わりではなく、新しい時代の幕開けであり、我々の希望を子供たちに託せることの幸せを噛み締めたいと思います。

これを機に我々大人もPTAだけでなく地域社会の一員として、未来ある子供たちを地域で見守っていくこと、積極的に地域や学校に関わることで、温かい地域づくりに結び付けていければと思います。これからも地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、編集にあたり、坂中卒業生の皆様のご活躍等を十分に掲載できなかったことをお詫び申し上げます。そして寄稿頂いた方々、諸先生方、閉校記念事業実行委員の皆様をはじめ関係するすべての皆様のご協力に心から感謝申し上げますと共に、皆様のこれからのご多幸と子供たちの健やかな成長と活躍、地域の発展を祈念し編集後記とさせていただきます。

坂野中学校閉校記念事業実行委員会

委員長 石原正裕